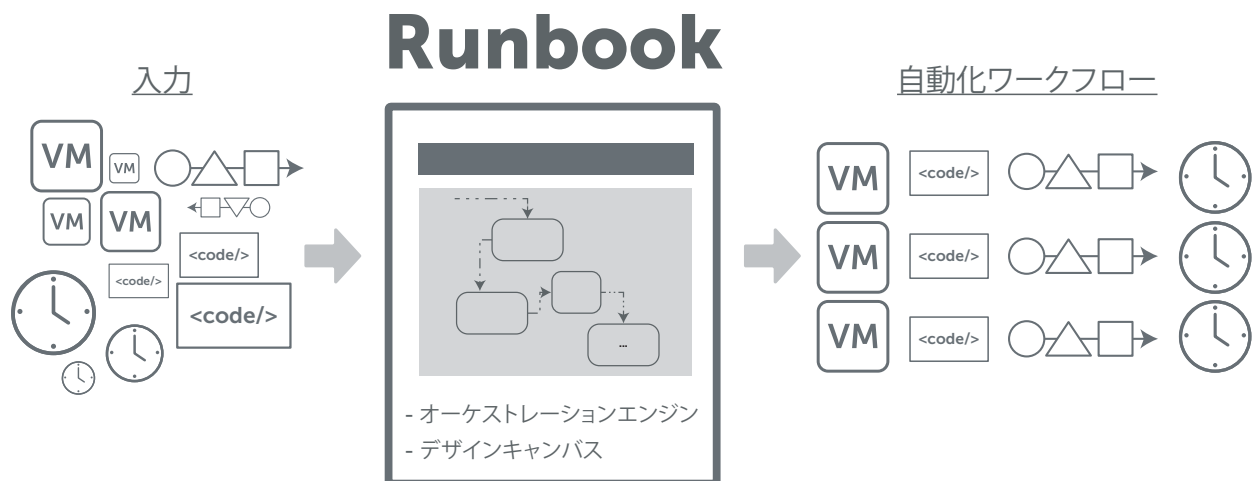


Cohesity Runbook

ワークロードの移行、復旧用自動データ管理

ワークロードをクラウドに移行する場合や災害復旧のために環境全体を別の場所にフェイルオーバーする場合、単にデータを複製するよりもデータを正しく使えるようにする方がはるかに複雑です。環境を別の場所に切り替えるには、複数の依存関係が複雑に入り組んだ一連の作業が伴い、手作業によるエラーが生じやすくなります。こうした手順を1つでも間違えて実行すれば、新しい環境が適切に立ち上がらない可能性があり、最悪の場合、すでに深刻な機能停止や災害状況をさらに悪化させてしまいます。

Cohesity Runbook は、インフラストラクチャをコードとして用いて、データ管理を自動化することで、ワークロードの簡単な移行や復旧が可能になります。また、将来のリリースでは用途がさらに広がる予定です。移行対象が単一アプリケーションであるか環境全体であるかにかかわらず、プロセスを簡単にし、エラーを防止します。複雑なタスクは、ワークフローの依存関係と実行フローを管理するオーケストレーションエンジンを使って合理化されます。操作が簡単なグラフィックデザインキャンバスを使えば、ワークフローをほんの数分で設計、検証、実行できます。API を使って、お好みの自動化ツールからワークフローを実行することも可能です。Runbook はベストプラクティスをカプセル化し、ハイブリッドクラウド経由でのワークロードの移行やフェイルオーバーの信頼性を高めます。



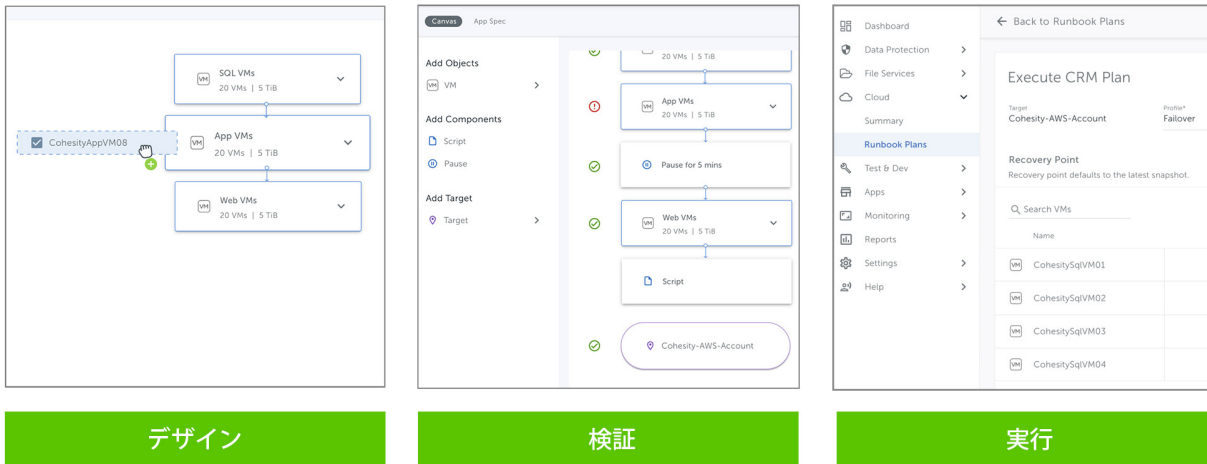
ワークロードのクラウド移行が簡単に

オンプレミスからクラウド、オンプレミスから災害復旧 (DR) サイト¹、またはクラウドからオンプレミス¹と、ワークロードや環境の移行が必要な場所とは関係なく、Runbook を使用すれば、プロセス全体の徹底的な自動化とオーケストレーションが簡単になり、常に環境を有効に維持できます。オンプレミスとクラウドでの VM の互換性も心配無用です。Cohesity Runbook は Cohesity CloudSpin と連係して VM フォーマットを自動変換し、クラウド VM を適切なシーケンスと適切な依存関係で起動します。

¹ オンプレミスから予備サイト、クラウドからオンプレミスは今後のソフトウェアリリースで利用可能となります。

機能するクラウド災害復旧

従来の DR から思い浮かぶのは、おそらく長いチェックリストやスクリプト、そして運です。Cohesity Runbook はチェックリストの全プロセスを視覚化し、ワークフローを自動化して、DR 計画のテストと検証が可能です。訓練でも実際の災害時でも、毎回スムーズに DR 環境全体が切り替わるので安心です。Cohesity Runbook は Cohesity CloudSpin と連携しパブリッククラウドへのフェイルオーバーを簡単に実行するうえ、VM の変換とスピンアップも自動的に行うため、従量課金制のクラウドインフラストラクチャのメリットが生かされ、DR コストの引き下げにつながります。



主要なメリット

複雑なタスクを合理化

- ハイブリッドクラウド経由でのアプリケーション環境のスピンアップと複雑なワークロードを自動化します。
- 実行フローを完全に管理しながら、各ステップと依存関係の調和を図ります。
- 自動化とワークロードの移行を個別アプリケーションから環境全体に拡張可能です。

短時間でワークフローを設計

- 操作が簡単なグラフィックキャンバスを使って、わずか数分でワークフローをドラッグ&ドロップして、デザインできます。
- アプリケーションの依存関係を管理し、必要に応じて時間遅延やカスタムスクリプトを挿入します。
- API と統合するお好みの自動化ツールからワークフローを実行します。

ベストプラクティスをカプセル化

- ワークフローに関するベストプラクティスを毎回実行することで、移行とフェイルオーバーを成功させます。
- ワークロードを移行したり、1つの場所から別の場所にフェイルオーバーしたりするときに発生するエラーや処理ミスを回避できます。
- ワークフローの検証をバックグラウンドで自動的に行い、信頼性を確保します。

クラウドへの移行でも災害復旧でも、自動化をためらう理由はありません。まずは、Cohesity MarketPlace から Cohesity Runbook をダウンロードしてください：<https://marketplace.cohesity.com/>